

# わたしの聖戦

◎◎女性が働くといふこと◎◎ 30

医学博士・医学ジャーナリスト

植田美津江

## ミスマツチの魅力

思いがけない組み合わせに遭遇するのは楽しい。自分の固定観念が揺らいだり、新鮮な発見をしたような気分になれるからだ。

たとえば先日、電車の中で子犬を連れだした若い男性を見かけたが、何が意外なのかといえばその男性の外見にある。パンク・ファッションとでも呼べばいいのだろうか、黒いレザーブーツに身を包み、サングラスをかけた一見して強面のお兄さん、ピアスで両耳が覆われ、ポケットにはチェーンがいくつもぶらさがつており、少しでも動けばジャラジャラ音がしそ

である。

しかし、彼が膝に抱えているポストンバッグからは今流行りの小型犬が不安そうな顔をのぞかせていた。子犬の入ったバッグを大事そうに持つて身動きしない彼はとても微笑ましい。見た目怖いパンクな男性と小型犬、少々ミスマツチのペアは何だか印象に残った。

また、茶髪でスレンダー、ヘソ丸出しで超ミニニを身にまとった若い女性が、ベビーの乗ったベビーカーを押しつつ、さらに2歳くらいの子を小脇に抱えて急ぐ姿が目に入ってきたときも、意外な気がして見とれてしまった。

子育ての大変さはよくわかる、思わず頑張れよーと叫びたくなくなるくらいであった。

そんなとき反省するのは、つまり私には、パンクのお兄さんや茶髪ミニの若い女性に対する何かの思い込みがある

意外な気がして……



いうことだ。人間を外見で判断してはいけないとよくいうが、そんな当たり前のことさえ実際には難しい。自分の矮(わい)小な思い込みを裏切ってくれるこんなミスマツチは、街中でどんだん発見していききたいものだと思

っている。

とても失礼なのだが、ハンサムな白人男性が結婚する日本女性は、おしなべて不美人である確率が高いというのもしばしば経験する。思わず振り返って見比べてしまうほど、何で？ と首を傾げるようなカッブルとの出会いは貴重な体験だ。

その不美人さというのはい、たいいてい目が細くて鼻ぺちやで丸顔でずんぐりむっくりといった具合である。何故そのようなカッブルが成立するのか……？

以前から感じていた疑問を恐る恐るある人に話してみた。イギリスで長いこと通訳をしている女性に、である。

すると彼女は「そうなの、白人男性はああいうの好きみたい」とあっさ

り言っただけなのだ。

美人の定義や既成の概念はここでもがらりと逆転する。私たちから見ると明らかに不美人のカテゴリリーなのに、相当数の白人男性にしてみればそうではないということだ！

これは、扁(へん)平顔の多い日本人女性を俄(が)然勇気づける事実だ。価値観の相違という一言では片付けられない現象である。日本で顔にコンプレックスを持ち、モテナイと気に病んでいる女性は思い切った欧米に行けば、まったく違う世界が待っているという示唆でもあるだろう。

自分の容姿が苦になる人は多い。最近整形も身近になったが、思い切った「ミスマツチ」を狙い、我が身を世界に投げ出す勇気もアリかもしれない。

イラスト・三浦義雄